

最新医療のご紹介

糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス治療

JCHO 中京病院 腎臓内科

先進医療について

先進医療は、新しい医療技術のうちで将来的に保険診療への導入の評価を行うものとして、厚生労働省が当該医療機関および実施医師に対して保険診療との併用を認めたものです。

参考) 厚生労働省 先進医療に関するホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/sensiniryō/>

先進医療の費用について

通常、差額室料などを含む先進医療にかかる医療技術については全額実費での負担になりますが、その他の部分については保険診療としての負担割合となります。

腎臓内科で実施している先進医療（先進医療 A）

1) 技術名

難治性高コレステロール血症に随伴して重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス治療

2) 適応症

難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白症状を呈する糖尿病性腎症

3) 背景・治療の根拠

糖尿病のコントロールが悪い状態が長期間続くと腎臓の機能が低下し、最悪の場合、透析療法の導入が必要となります。糖尿病性腎症は、1998 年以降、透析導入の原因として第 1 位となり、2011 年には新たな導入患者の 44.2%を占めるに至っています。

糖尿病性腎症は尿蛋白などにより、第 1 期（腎症前期）、第 2 期（早期腎症期）、第 3 期（顕性腎症期）、第 4 期（腎不全期）、第 5 期（透析療法期）の順に進行していきます。本治療が考慮されるのは第 3 または第 4 期の状態です。

この時期の腎症の進展を防ぐためには、血糖・血圧のコントロールおよび蛋白制限などの食事療法に加えて、入院治療についても検討しなければなりません。薬による治療ではある種の降圧薬（レニンアンジオテンシン系阻害薬）が有効であることが分かっていますが、第4期に進展してしまうとその進行を抑えきれなくなる場合があります。また、悪玉コレステロールとも呼ばれている血液中のLDL値が高い状態が続くことでも腎臓の機能が低下することが知られています。

このような状況の中、糖尿病性腎症の患者さんに対して血液中のLDLを一気に大量に取り除くLDLアフェレシス療法を実施したところ、尿蛋白や血清クレアチニン（腎臓の機能を示す血液中の成分）が改善したという報告があります。さらに、尿蛋白約3g/day以上の糖尿病性腎症患者さんの2年間の生存・腎機能維持率が約60%に対して、LDLアフェレシス療法を実施した同様の患者さんの2年間の生存・腎機能維持率は95%（20症例のうち19症例）という結果も出ています。しかしながら、現時点ではLDLアフェレシス治療は保険診療の適用ではありません。

LDLアフェレシス療法による糖尿病性腎症患者さんにおける生命の延長や腎機能の維持など有効性と安全性を検討し、同治療の将来的な保険診療を目指して先進医療として実施していきます。ただし、同時に、多施設臨床試験としても実施されるため（当院倫理委員会で承認済み）、負担額が実際の費用とは異なってきます。

費用（概算）

2,416 円/1 回あたり

※治療の詳細については、腎臓内科（担当：透析センター・腎臓内科医師 佐藤）へお問い合わせください。